

などで調査をおこなった。

以上の調査成果の詳細については、年報Ⅲを参照されたい。なお、発掘調査にともなう現地説明会は、以下の日時に開催した。(箱崎和久)

6月14日 平城宮第274次(東面大垣)山下信一郎

12月6日 平城宮第280次(東院南東隅)内田和伸

平城京の調査

1997年度に平城宮跡発掘調査部がおこなった発掘調査は平城宮跡7件、平城京跡20件、京内寺院・その他3件で、計30件におよんだ。このうち、学術発掘および史跡整備にともなうものは7件3,768m²、住宅建設等による緊急調査が23件4,838m²と、緊急調査の比重が大きい一年であった。おもな調査の成果は以下の通りである。

平城宮跡では、式部省東方の東面大垣(第274次)、東院園池とその周辺(第280次・第283次・第284次・第286次)など、宮の東南部に調査が集中した。第274次では、宮内基幹排水溝から東一坊大路西側溝へ流れ出る溝によって、東面大垣が途切れていた時期のあったことが判明した。第280次では、東院東南隅にあって隅楼といわれてきた特殊な平面をもつ掘立柱建物の全容をつかみ、第284次では、東院園池南岸および二条大路北側溝の様相をあきらかにした。宇奈多理神社境内でおこなった第283次では、基壇建物の石組雨落溝を検出し、その東の第286次では、東面大垣西壁(宮内側)の建設用堰板痕跡を検出するなど、画期的な発見が続いた。

一方、京城では左京二条二坊十一坪周辺(第281次・第282-10次・第282-16次・289次)と、右京三条一坊三・四坪(第288次・第290次)で、比較的規模の大きい調査をおこなった。前者では、二条条間路の南北両側溝をはじめとする条坊遺構のほか、法華寺の寺域にひらくと想定される礎石建の門、十一坪の北辺にひらく掘立柱棟門を発見した。また、坪内では既調査区と連続する掘立柱建物を検出し、十一坪は十二坪と一体で2町占地のブロックである可能性が高くなった。後者では遺構が希薄なもの、朱雀大路西側溝周辺の様相をあきらかにした。第282-11次・-12次・-13次では、市庭古墳の周濠と周堤を検出し、旧大乘院庭園北岸の調査(第285次・第287次)では、近代の地形造成が予想よりも大規模で、近世以前の汀線はさらに北にのびることをつかんだ。そのほか、阿弥陀浄土院推定地(第282-6次)、長屋王邸(第291次)